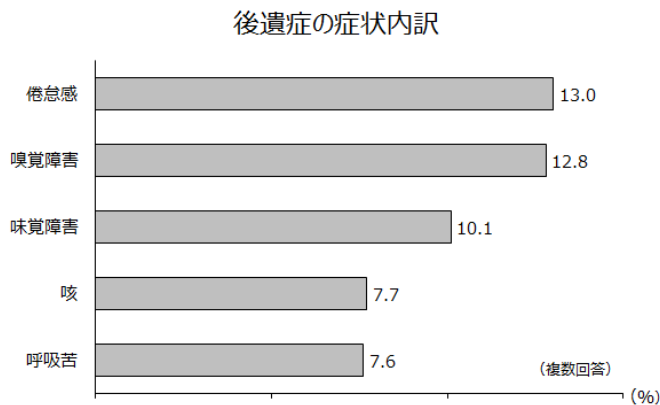


## 【第 17 回 新型コロナ後遺症】

新学期を迎え、対面授業が始まりましたが、現時点で目立った問題点はなく比較的順調な船出となりました。この状況を続けたいものです。続けれるか否かは個人の感染対策にかかっています。今回は新型コロナウイルス感染後の後遺症についてみてみましょう。

新型コロナウイルスに感染した人の中には、感染後の数週～数ヶ月に渡り様々な症状に苦しんでいる人がおります。このことを日本では「後遺症」と表現します。こういった症状が多いのか。以下は大阪府新型コロナ受診相談センターによせられた後遺症の相談をまとめたものです。相談数は 7708 件、期間は 2021/7/8～2022/1/31 です。



倦怠感が最も多く(13.0%)、上位 5 番目までの症状はグラフの通りです。倦怠感というと軽く考えてしまいますよね。でも、重症化すると起き上がることができなくなります。実際、大学に登校できなくなった学生例も報告されています。その他、グラフにはありませんが、脱毛、頭痛、胸部不

快感、微熱、めまい、不眠、など様々な症状が起こります。「いつまで続くのか?」。日本人のデータでは、発症時あるいは診断時から半年後で 26.3%、1 年後で 8.8%、と報告されています。つまり、半年後で約 4 人に 1 人、1 年後で約 11 人に 1 人が何らかの症状に苦しんでいるということです。後遺症が出やすい人は、女性、肥満者、喫煙者、であることもポイントです。新型コロナウイルス感染は、感染時の症状ばかりではなく、後遺症からも恐ろしいウイルスであることがわかつています。

後遺症は怖いのです。感染時の症状がたとえ楽であっても、様々な症状が後になって起こりうるのですから。学生の皆さん、マスクを外すことは避けましょう。友人との会食、友人の家での歓談、友人同乗の自動車移動、要注意です。(文責: 佐藤 浩樹)